

2021年1月1日  
69号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029(354)5111  
発行人 飯嶋和秀  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>  
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

## 新年のご挨拶

院長 吉井 慎一



新年、明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、旧年中は新型コロナウイルス感染症拡大のなか、日常の生活でも、仕事でも例年とは異なる日々を送られたことと思います。今年もwithコロナ社会は続き、新常態（ニュー・ノーマル）と言われる生活スタイルは定着するのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症については、2020年11月の統計から、日本での感染者数は100万人当たり863人、死亡者は14人となっています。最も感染者数が多い米国では、100万人当たり32,573人、死亡者は768人となっています。スウェーデンは経済活動を自由にし、ある程度の年齢による命の選別が行われた結果、100万人当たりの死亡者は590人と多く、一方、10万人当たりの集中治療室が29.2床（日本4.3床）と充実しているドイツでは、100万人当たりの死亡者は139人と欧州では低い数値でした。日本は効率のよい医療をめざす一方で、急性期病床、特に集中治療室は減少している状況となっています。今回の感染症対策で最も重要な点は、死亡者数をできるだけ減らすことができるかということです。大都市中心に入院患者が増大し、医療崩壊のリスクが高まっています。感染者数の少ない地域は、もともと医療資源が乏しい地域でもあり、感染者数が増大したら、ある

意味大都市より切迫した状態になります。

懸念されていたインフルエンザとの同時流行は、12月の状況、また世界の流行状況から生じないと予測されています。しかし、冬になるとインフルエンザの流行がなくとも、発熱患者は増大します。その中には、新型コロナウイルス感染症以外の発熱がより多く、重症化する他の疾患で適切な医療が受けられない状況も予測されます。当院は急性期病院であり、発熱以外の救急患者の要請にもできるだけ応じる役割があります。政府は、この冬の発熱患者はできるだけかかりつけ医に相談し、予約して受診するという方針を立てています。当院通院中の皆様には、発熱時は必ず電話で相談してから受診いただくようご協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、今後の医療にも大きな影響を与えることが予測されます。日本では多くの病院が入院・外来患者の減少から、収支の大幅な悪化に陥っています。体力のない病院は閉院や統合へと向かうかもしれません。これに伴う医療へのアクセスの悪化がおこる可能性もあります。日立製作所の企業価値として、「社会価値」「経済価値」「環境価値」があります。今まさに企業立病院としての「社会価値」が問われていると思います。当院は地域を護る病院として、新型コロナウイルス感染拡大の中で、地域の中核病院としての役割を果たしていきたいと考えています。

最後になりますが、この一年間の皆様方、ご家族のご健勝とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

1月	日	月	火	水	木	金	土	2月	日	月	火	水	木	金	土	3月	日	月	火	水	木	金	土	4月	日	月	火	水	木	金	土	
						①	②			1	2	3	4	5	⑥			1	2	3	4	5	⑥							③		
1	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	2	⑦	8	9	10	11	12	⑬	3	⑦	8	9	10	11	12	⑬	4	④	5	6	7	8	9	⑩	
月	⑩	⑪	12	13	14	15	⑯	月	⑭	15	16	17	18	19	⑳	月	⑭	15	16	17	18	19	⑳	月	⑪	12	13	14	15	16	⑰	
	⑰	18	19	20	21	22	⑳		㉑	22	23	24	25	26	㉒		⑳	21	22	23	24	25	26	㉒		⑱	19	20	21	22	23	㉔
	㉓	24	25	26	27	28	⑳		㉕						㉖		㉕	29	30	31						㉕	26	27	28	29	30	

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



## 放射線科



放射線科医 江口 信子

放射線科は、一般の皆様馴染みが薄い名称だと思われ  
ますので、私どもの日々の仕事を簡単に紹介させていた  
だきます。

当院の放射線科には、外来や入院病棟はありません。  
我々の主たる業務は、当院各診療科の外来や病棟、およ  
び近隣の連携医療施設様からご依頼いただくCT/MRIな  
どの各種画像検査を実施し、その後得られた画像を詳細  
に観察し、読影結果をレポートとして依頼医にお返しす  
ることです。この業務は「画像診断」と呼ばれます。2019  
年度に当科で作成した「画像診断」レポートは、15,000  
件以上で

す。放射線診断は、放射線診断専門医の画像診断による病  
変の正確な診断、治療法の選択、治療効果の判定に必  
要な情報を提供し、病院全体の診療レベルの向上に寄与  
しています。

もう一つの当科業務の柱は、IVRです。IVRとは、英語  
のオリジナルであるインターベンショナルラジオロジー  
(interventional radiology) の略で、日本語は「画像下  
治療」と訳されます。肝がんに対し血管造影（X線透視）  
機を用い、動脈から抗がん剤を注入したりします。当科  
は入院病棟はないので、適応の患者さんがいる場合は消  
化器内科など当該科にご紹介ください。

当院放射線科は、常勤医1名と21名の診療放射線技師  
スタッフが協力し「質の高い医療」をめざし日々努力し  
ています。また現在は2台のCT装置（64列、128列）、1  
台のMRI装置

（1.5T）、2台の超音波装置が稼働しており、患者さん  
の待ち時間短縮や救急検査にも迅速に対応しています。各  
種検査で患者さんへの不必要な放射線被ばくを防止する  
ためにも、安全で適正な検査を受けられるよう従事し  
ています。

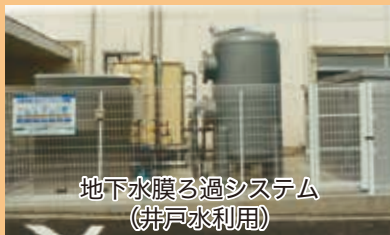


放射線科医&診療放射線技師

## 部署紹介 事務局施設管理係



事務局施設管理係では、医療機器、医療材料、消耗品、備品などの調達や管理、建屋設備の維持管理、廃棄物管理、環境整備、委託業務管理など、さまざまな業務を担当しています。他部署とは異なり、直接患者さんと接する機会は多くありません。しかし、医師など職員が業務に集中し良い医療を提供できるよう、緑の下の力持ち的な部署として日々の業務に取り組んでおります。



地下水膜ろ過システム  
(井戸水利用)



非常用発電機  
(1,000kVA×1台)

### 《災害に強い 病院を支える》



無停電電源装置  
(UPS) (100kVA×1台)

### 【免震構造】



積層ゴム (52基)



すべり支承 (22基)



オイルダンパー (12基)

## 地域の先生紹介

## ながおこどもクリニック

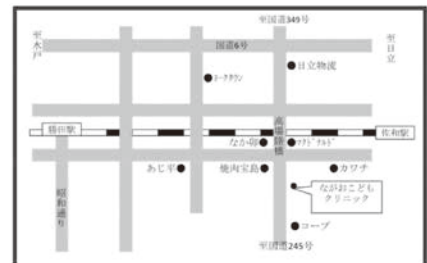
小児科専門クリニックとして、ひたちなか市高場に開業して、18年になります。茨城県は小児科専門医が少ない県であり、地域の先生方、日立製作所ひたちなか総合病院の先生方にお世話になりながら、ここまでやってまいりました。小児疾患全般を診療しておりますが、近年は感染症に加えて、小児喘息などのアレルギー疾患の増加が目立ってきております。また保育園の園医を多数担当し、学校保健会にも参加し、地域の学童の健康に役立てるよう努めていく所存です。

### ●院長のプロフィール

1986年筑波大学医学専門学群を卒業し、同大学小児科入局。1991年から日立製作所日立総合病院、水戸総合病院（現在のひたちなか総合病院）で勤務し、2002年に今の地に開業して、現在に至っております。



院長 長尾 和哉



## 医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携推進センターへ

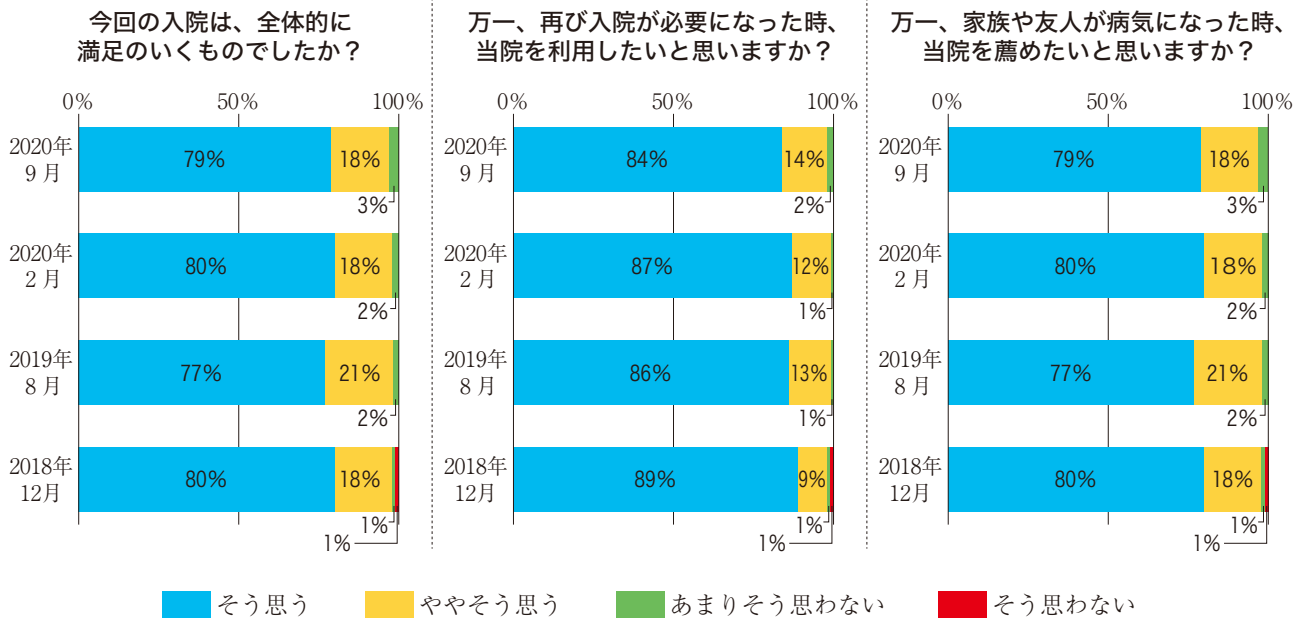
8:15~16:30 (月曜日~金曜日)

TEL 029-354-5202 (直通)

FAX 029-354-5220 (直通)

## 患者さん満足度調査結果

地域の皆様に満足いただける病院をめざし、入院患者さんへアンケートのご協力をいただきました。実施は2020年9月1日から9月30日の間にご退院された患者さんにご協力をいただき、321名の回答をいただきました。総合的な印象の設問結果を下記に示します。今回の調査結果をもとに、より良い病院となるよう努めてまいります。



## 免疫力を高めて元気に過ごしましょう

免疫機能は体を健康に保つための力です。しかし、生活習慣が乱れたり、ストレスが蓄積したりすると免疫力が低下することがあります。今回は免疫力を高める生活のポイントをご紹介します。

### 1. 適度な運動と体を冷やさないこと

ストレッチやウォーキングなどの運動を心がけましょう。全身の血流が良くなり、代謝も上がって体がポカポカになります。ただし、強すぎる運動は免疫力を下げてしまいますのでご注意ください。お風呂にゆっくり入って体を温めましょう。

### 2. 質の良い睡眠をとってストレスから解放

質の良い睡眠をとるために、毎日同じ時間に起きて、同じ時間に寝ましょう。就寝前にスマートフォンなどは見ないように。起床後に朝日を浴びること、朝食をしっかり摂ることも大切です。質の良い睡眠は脳がストレスから解放され、リラックスしている状態です。

### 3. 栄養バランスの取れた食事

腸内環境を整えることも大切です。タンパク質やビタミン類・ミネラルをバランス良く食べてください。最近では玄米や海藻類、葉野菜、キノコ

類は免疫力を高めると言われています。

### 4. 笑う

笑うことは免疫力を上げる一番の方法です。笑うことが難しい状況でも笑顔を作るだけでも効果があります。

生活にさまざまな制限があり、どうしてもストレスは蓄積します。病気に負けないように、よく寝てよく食べて体を動かしていきましょう。

## ◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆

診療科	氏名	異動日
内科	山田 修三	退職 (2020.11.30)
	徳留 和佳	採用 (2020.12.1)
循環器内科	悦喜 豊	採用 (2020.12.1)
消化器外科	丸森 健司	退職 (2020.10.31)
臨床研修医	鯨岡 裕平	退職 (2020.10.31)
	立石 綾	退職 (2020.10.31)
	深井 陽太郎	退職 (2020.11.30)
	伊東 里奈	退職 (2020.12.31)
	川地 祐輔	退職 (2020.12.31)
	月岡 響希	採用 (2020.11.1)
	新田 葉月	採用 (2020.12.1)
	杉山 博紀	採用 (2021.1.1)